

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅱ-2-1
健康づくりの推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

健康推進課長 山崎一幸

電話番号

0852-22-5248

事務事業の名称	肝炎医療費助成事業	
目的	(1) 対象	①B型・C型ウイルス性肝炎患者 ②肝炎ウイルスに起因する肝がん・重度肝硬変患者
	(2) 意図	①抗ウイルス治療に係る医療費負担を軽減し、早期受診・早期治療を促す。 ②長期的な入院治療を必要とする肝がん・重度肝硬変患者の経済的負担を軽減する。
事業概要	○助成内容…①抗ウイルス治療に係る医療費の一部を助成 (対象となる治療 ◆インターフェロン治療 ◆インターフェロンフリー治療 ◆核酸アナログ製剤治療) ②入院治療が高額かつ長期にわたる患者の入院治療費の一部を助成 (対象となる治療 ◆肝炎ウイルスに起因する肝がん・重度肝硬変に対する入院治療)	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	肝炎治療費助成者数	目標値		1,000.0	1,000.0	1,000.0	1,000.0	人
	式・定義	肝炎治療受給者証を交付した者の数	取組目標値						
			実績値	1,579.0	1,150.0	1,045.0			
			達成率	-	115.0	104.5	-	-	%
2	指標名		目標値						
	式・定義		取組目標値						
			実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	97,803	147,552
うち一般財源 (千円)	40,257	73,780

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

○平成29年度医療費助成者数(延べ1,045人)
 ・インターフェロン治療 3人
 ・インターフェロンフリー治療 228人
 ・核酸アナログ製剤治療(新規) 61人
 ・核酸アナログ製剤治療(更新) 753人

6. 成果があったこと(改善されたこと)

肝炎医療費助成については治療効果の高い薬や、副作用の少ない薬の登場により、年々治療が受けやすくなっている。
 平成29年度も対象となる治療薬の拡大があったが、遅滞なく県要綱改正等ができて、円滑に事業執行ができた。
 また、今年度から肝炎ウイルスに起因する肝がん・重度肝硬変患者に対する医療費助成が開始される予定。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

・年度途中で国の制度改正(対象となる治療薬の拡大)が頻繁に行われるため、その都度短期間で予算への影響を把握し、県の要綱改正、医療機関等への周知を行う必要がある。
 ・開始が予定される肝炎ウイルスに起因する肝がん・重度肝硬変患者への医療費助成について、円滑に制度を開始し、また今後の制度変更に対応する必要がある。

②困っている状況が発生している「原因」

・治療法の進歩が目覚ましく、新薬に関する情報が直前まで把握できない。
 ・肝炎ウイルスに起因する肝がん・重度肝硬変患者への医療費助成については、患者団体等からの要望などにより開始されることとなったが、治療期間などによる制限もあり、今後の制度変更も考えられる。

③原因を解消するための「課題」

・新たな治療薬などの必要な情報をいち早く収集することが必要。
 ・肝硬変、肝がん患者への医療費助成についての国の今後の方向性の把握。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

・国の制度改正の方向性を注視するとともに、県内の専門医や製薬会社等から新薬の情報などの情報収集に努め、国の制度改正に遅れることなく県の要綱改正、予算措置、医療機関への周知等を行う。